

普及活動情勢報告（令和6年7月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

集落営農法人間で課題や取組を共有 ～令和6年度第1回高南地域集落営農法人連絡会～



普及所からの情報提供

7月8日、四万十農協会館で高南地域の8集落営農法人と関係機関合わせて38名が集まり、今年度第1回目の「高南地域集落営農法人連絡会」を開催しました。

普及所からは、法人運営にかかる手続きや有利な制度、水稻のカメムシ防除等について情報提供しました。

法人からはそれぞれの経営状況や問題点等の報告をしてもらい、水稻の技術的な質疑のほか、「毎年農地が集まっている」「県単補助事業のルールを見直してほしい」など、活発な意見交換が行われました。

今年度は年3回の開催を予定しており、引き続き関係機関と協力して法人の経営発展につなげていきます。

農福連携の推進に向けて ～町内事業所見学ツアー～



視察後に意見交換とアンケート調査を実施

7月10日、農福連携に関心の高い農家を対象に、「町内事業所見学ツアー」を開催し、農家や関係者8名が参加しました。

視察した3カ所の就労継続支援事業所はニラやピーマン、ショウガの出荷調製作業を実施しており、ツアー後にはミョウガのパック詰めをしている事業所の作業風景を役場で視聴し、意見交換を行いました。

参加者からは「他地域の取り組みも研究してみたい」「実際に見ないとわからないことがたくさんあり、参加できて良かった」など、意欲的な声が聞かれました。

普及所では農家の農福連携への意識向上を目的としたイベントを継続して開催し、取組拡大へとつなげていきます。

簡易な雨よけで斑点細菌病を予防しよう ～夏秋ピーマン部会現地検討会～



簡易な雨よけ施設を見学

7月12日、JA高知県四万十夏秋ピーマン部会で現地検討会を開催し、14名が参加しました。

普及所から斑点細菌病対策として、「畝の上部に鉄パイプで簡易な屋根を設置し、ポリフィルムで被覆する」ことの有効性と設置手順を説明した後、実際に設置しているほ場を見学しました。

参加者からは「安価に自主施工できるのは良い」「強度が心配だから改良したものも見てみたい」など前向きな意見が出てきました。

普及所では今後もJAと協力し、夏秋ピーマンの安定生産を支援していきます。

穂肥現地検討会の開催

～JA高知県四万十酒米生産部会



参加者で生育状況を確認

7月19日、JA高知県四万十酒米生産部会の穂肥現地検討会が開催され、生産者8名が参加しました。

検討会では、参加者全員のほ場を巡回し、普及所から穂肥の意義や施用時期、病虫害防除について説明しました。

生産者からは、「落等の主な要因となっている充実不足対策として、穂肥が重要であることが分かった」「イネカメムシの被害が全国で拡大傾向にあり、防除適期である出穂期防除を心がけたい」といった活発な意見交換が行われました。

普及所は、今後も管内の高品質酒米生産を支援していきます。